

岡崎市議会議長 様

支出番号

議員名

山崎 泰信



下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

## 政務活動旅行報告書

令和2年1月15日提出

|                 |                             |                               |
|-----------------|-----------------------------|-------------------------------|
| 活動年月日           | 平成31年4月15日（月）～平成31年4月17日（水） |                               |
| 氏名              | 山崎 泰信                       |                               |
| 用務先<br>及び<br>内容 | 1                           | 用務先 茨城県 常総市                   |
|                 | 4月15日                       | 内容<br>鬼怒川緊急対策プロジェクトについて       |
|                 | 2                           | 用務先 長野県 長野市                   |
|                 | 4月16日                       | 内容<br>農業振興アクションプラン（ジビエ計画）について |
|                 | 3                           | 用務先 新潟県 糸魚川市                  |
|                 | 4月17日                       | 内容<br>糸魚川駅北大火の概要と対応等について      |
|                 | 4                           | 用務先                           |
|                 | 月 日                         | 内容                            |
| 備考              |                             |                               |



## 〈政策調査報告書〉

視察日：平成31年4月15日（月）

視察先：国土交通省関東地方整備局大館河川事務所

視察内容：鬼怒川緊急対策プロジェクト

視察者：山崎泰信・蜂須賀喜久好

## 〈常総市の概要〉

県の西南部に位置。

中央を鬼怒川、東側を小貝川が流れ、水とゆかりの深い田園都市。

06年1月に水海道市が石下町を編入し、市名を常総市に変更。

歴史的には、舟運による交流の地で、常総地方の中心都市。

工業団地造成や企業誘致などで内陸型中堅工業都市として発展。

12年に筑波大学との連携協定を結び、まちづくりなどの分野で活性化に取り組むほか、

15年9月の関東・東北豪雨災害からの復興や地方創生へ向けた取り組みを進めている。

## 〈総合計画の策定状況〉

・策定時期：2017年

計画期間：2018年～2027年

・将来都市像

みんなで作るしあわせのまち じょうそう

～あの人がいるからこのまちがすき～

・主要プロジェクト

国道354号以南の南北軸の道路となる鹿小路細町線の整備（06～18年度）

市民協働、予約型乗合交通（デマンド型乗合交通）の運行（09～）

常総市圏中央道常総インターチェンジ周辺地域整備事業（13年度～）

道の駅整備事業（17年度～）

## 〈鬼怒川緊急対応プロジェクト〉

「水防災意識社会」の再構築

我が国では、古来、水害が日常的に発生

水害を「我がこと」として捉え、自ら対処しようとする意識が社会全体に根付いていました。

近代的河川改修が進み、水害の発生頻度が減少。  
社会の意識が「水害は施設整備で発生を防止」へと移り変わる。

今後の気候変動により、施設能力を超える洪水の可能性がある。  
「施設の能力には限界があり、施設では、防ぎきれない。  
大洪水は、必ず発生するもの」へと意識変革し、社会全体で洪水氾濫に備える必要がある。

#### (ハード対策)

- ・ 決壊した堤防の本格的な復旧
- ・ 高さや幅が足りない堤防の整備
- ・ 洪水時の水位を下げるための河道掘削

#### (ソフト対策)

- ・ 豪雨時の行動を示した「タイムライン」の作成とそれに基づく訓練
- ・ 地域住民等の共同点検
- ・ 広域避難に関する仕組みづくりなど

#### <ハード対策関連>

(堤防を早期に完成させるための工夫)

- ・ 平成27年9月10日、関東・東北豪雨による記録的大雨により、常総市上三坂地区の鬼怒川の堤防が延長200mにわたって決壊。
- ・ 国土交通省では、さまざまな工夫を積み重ね、仮復旧を14日間で完成させるとともに、梅雨前の5月27日に本復旧完成(136日間)

#### <ソフト対策関連>

- ・ 平成28年5月11日に第2回協議会を開催し、全国に先駆けて、国、県、市町が一体となって「水防災意識社会を再建築するための取組方針の策定。
- ・ 取組み方針は、最大クラスの洪水に対して「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目標とし、平成32年度までに河川管理者である国、県や水防活動・避難勧告の発令を担う市町が一体となって行う。

#### <所感>

時間雨量が50mmを超える短時間雨量や、総雨量が1000mmを超えるような豪雨により、全国各地で毎年のように甚大な豪雨災害が発生をしています。

国は水防災意識社会の再構築に向けた取組みとして、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策を進めています。

河川管理者はもとより、行政や住民、企業等の各主体が『施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの』へと意識変革し、氾濫が発生することを前提として社会全体で洪水、氾濫に備えることが必要です。

岡崎市においても過去の浸水実績情報（石に刻んであったりするものも含め）水害リスク情報として、住民に機会あるごとに市民にしっかり伝えていく必要があると感じました。



## 〈政策調査報告書〉

視察日：平成31年4月16日（火）

視察先：長野県長野市

視察内容：長野市農業振興アクションプラン

視察者：山崎泰信・蜂須賀喜久好

### 〈長野市の概要〉

県の北部、千曲川に沿って広がる平野部の四方を妙高・戸隠連山国立公園に代表される山並みを取り巻く。

1400年の歴史を刻む善光寺の門前町として栄えてきた。

川中島の合戦などの歴史舞台、1998年冬季オリンピック・パラリンピックの開催地として、国内外に知られる。

### 〈市民が幸せを実感できるまちづくり〉

人口減少、少子・高齢化社会の進行など、今までにはない変化に対応し、総合力かつ計画的な行政運営の指針として平成17年から第5次長野市総合計画がスタート。

市民が真の豊かさや幸せを実感し、いきいきと生活でき、市民や地域の力を原動力にしながら持続可能なまちを目指す。

自然環境や交通環境など、本市の特徴を十分に発揮したまちづくりを推進し、本市特有の地域資源を活用してまちの活力と魅力の維持・創出を目指す。

### 〈総合計画の策定状況〉

策定時期：2017年

計画期間：2017年～2026年

### 〈将来都市像〉

幸せ実感都市「ながの」

オールながので未来を創造しよう

### 〈主要プロジェクト〉

長野駅周辺第二土地区画整理事業（93～18年度）

ジビエ肉処理加工施設整備事業（17～18年度）

長野市観光振興計画（17～21年度）

## 〈長野市ジビエ振興計画〉

### 1.計画策定の趣旨

中山間地域が市域の74.3%を占め、豊かな森林地帯を形成し、恵まれた自然が形成する景観を提供している。

かつては、人と野生鳥獣の生息域との棲み分けがなされていたが、イノシシやニホンジカなど野生鳥獣による農業被害が深刻化している。生態系のバランスを保ちながら、被害の軽減を図る新たな施策が必要。

現在、駆除・個体数調整により捕獲されたイノシシやニホンジカの多くは埋設処理されている。

それを新たな地域資源として有効活用し、農家、捕獲従事者の労力を軽減して被害対策を促進し、地域の活性化を目指す。

### 2.計画の位置付け

- ①第四次長野市総合計画
- ②長野市やまざと振興計画
- ③長野市ひと・まち・しごと・創生総合戦略
- ④長野市鳥獣被害防止計画

### 3.有害鳥獣被害の現状と課題

#### ①野生鳥獣による農作物被害

この10年間市内における野生鳥獣による農作物被害額については、6千万円～7千万円の高止まりの傾向にある。

特にイノシシとニホンジカによる被害額は全体の約3～4割。

イノシシは平成23年度には、平成17年度の6割以上の増加となりピークとなりましたが、その後減少傾向。

ニホンジカについては、この5年間、平成17年度の5倍以上に激増し、減少の兆候が全く見られません。

#### ②課題

- ・高止まりしている被害の軽減に向け、新たな施策の取り組みが必要
- ・イノシシの捕獲水準を保ちながら、ニホンジカの捕獲強化を継続して行う必要がある
- ・捕獲個体を埋設するだけでなく、地域資源として無駄なく有効に活用する施策をとおし、地域の活性化につなげる取り組みが求められる
- ・狩猟者の捕獲意欲向上と新たな狩猟者の参入を促す必要がある。

#### 4.ジビエ肉処理加工施設等の整備推進

①ジビエ肉の処理加工施設が再建され、運営されている。(H25.3～)

##### ②肉処理加工施設事業手段

- ・新たな施設は、市が建設する。
- ・施設の運営は当初市直営で行う。
- ・5年後目処に、指定管理移行を目指す。

##### ③ジビエ肉処理加工施設整備促進

- ・食肉利用を可能とするために捕獲個体の確保
- ・良質なジビエ肉を得るため、移動式解体処理車活用による捕獲個体の収集運搬体制の検討し、処理施設までの運搬距離、運搬時間に影響されることなく良質なジビエ肉を得ることが可能になる。

#### 5.新たな地域資源による中山間地域活性化の推進

①住民自治協議会との連携と6次産業化への推進

②農業被害を及ぼすイノシシ、シカを新たな地域資源として有効活用する

③当初は、市直営で行い、概ね5年後を目処に指定管理者による民間運営に移行

④地元住民自治協議会と施設運営について協議を進め、運営の担い手づくりを進める

⑤長野ジビエブランド化の推進

##### 〈所感〉

- ・長野市農業振興アクションプランの長野市ジビエ振興計画について

ジビエとは、狩猟や個体調整のために捕獲した鳥獣もしくはその肉です。

牛や豚・鶏は蓄場などの法律に基づき検査が行われたもののみが流通しますが、ジビエは法律に基づく検査が行われることなく流通する様です。

生や十分に加熱しないで食べると様々な食中毒になるおそれがあります。



となると食することが心配になります。

ただ日本全国的にイノシシ・ニホンジカの捕獲頭数は、激増しています。

岡崎市においても同じであります。

今ほとんどの個体が焼却処分されている状況ではありますが、イノシシのトンコレラ発生に伴いただちに施設建設は難しいが、今後しっかり検討していくべき課題と考えます。



## 〈政策調査報告書〉

視察日：平成31年4月17日（水）

視察先：新潟県糸魚川市

視察内容：糸魚川市駅北大火からの「復興まちづくり」について

視察者：山崎泰信・蜂須賀喜久好

### 糸魚川市の概要

（由来）糸魚（いとよ）のすむ清らかな川のあることから、豪族の氏に由来することなど諸説がある。

### （翠の交流都市へ）

05年3月に能生町・糸魚川市・青海町が合併し、新「糸魚川市」に。

県の南西端に位置し、南は長野県、西は富山県と接する。

東日本と西日本を分ける糸魚川―静岡構造線の北端。

2つの国立公園に指定され、日本海を対馬暖流が北上することから、多種多様な動植物が生息。

地理的優位性と、ヒスイをはじめとした優れた地質遺産を活用したまちづくりの理念を「翠の交流都市」として掲げる。

09年8月、日本初の世界のジオパークに認定。

### （復興まちづくり）

17年度を初年度とする「第2次糸魚川市総合計画」を策定し、30年先も維持可能なまちづくりを基本に、人口減少社会に対応したまちづくりに取り組む。

16年9月に、ヒスイが国の石に選定され、糸魚川世界ジオパークの素材を生かして、保護・保全・教育・防災・地域振興の取り組みを進める。

16年末には、糸魚川市駅北大火が発生しており、災害に強く賑わいと多世代が活活に交流するまちの復興再生を目指す。

### 〈まちづくり〉

#### （総合計画の策定状況）

策定時期：2016年

計画期間：2017～2023年

#### （将来の都市像）

翠（みどり）の交流都市、さわやか、すこやか、輝きのまち

#### （主要プロジェクト）

まち・ひと・しごと創生総合戦略（15～19年度）  
立地適正化計画（18年度～）  
子ども一貫教育基本計画（16～23年度）  
生涯学習推進計画（17～23年度）  
健康いとかわ21（16～23年度）  
ジオパーク戦略プロジェクト（17～21年度）  
都市計画マスタープラン（07～26年度）  
行政改革大綱実施計画（17～21年度）  
国土利用計画（17～25年度）  
駅北復興まちづくり計画（17～21年度）

〈糸魚川市駅北復興まちづくり計画〉

（大火の概要）

出火：平成28年12月22日（木）10時20分頃  
鎮火： // 12月23日（金）16時（出火から30時間）  
出火場所：糸魚川市大町1丁目2番7号ラーメン店  
出火原因：大型コンロの消し忘れ  
焼損棟数：147棟（全焼120棟、半焼5棟、部分22棟）  
焼先面積：約40,000㎡  
負傷者：17人（一般2人、消防団員15人）  
被災者状況：145世帯260人56事業者

（計画策定の目的）

市民、地域、事業者、行政等の関係者が、復興まちづくりに対する考え方を共有するための基本方針を示す。

（計画の検討体制）

被災者、市内関係団体等から多くの意見を聞き、幅広い視点で計画を検討するための組織。

（計画時期）

平成33年度までの5か年とし、3つの段階に分けて進めていく。

（計画の対象地域）

被災地を優先的に復興まちづくりに取り組む「重点地域」とし、被災地周辺を含めた糸魚川駅北地域の中心市街地を「計画対象地域」とする。

(計画推進に向けて)

復興に向けた取り組みについては、定期的実施主体や外部の評価組織による評価と検証を行い、その内容を公表。

計画は、復興まちづくりをとりまく環境の変化などにより柔軟に見直していく。

(目標)

カタイ絆でよみがえる笑顔の街道糸魚川

(3つの方針)

①災害に強いまち

大火を二度と繰り返さない災害に強い安全な市街地の設備を進める。

②にぎわいのあるまち

人々が集い憩う中心市街地としてにぎわいと活力の創出

③住み続けられるまち

被災前の人口規模の回復

(6つの重要プロジェクト)

重要な施策や波及効果が高く優先的に取り組むべき施策。

①大火に負けない消防力の強化

住宅用火災警報器設置推進

初期消火体制の強化

強風時における飛び火対応の強化

海水や用水など自然水利の活用

②大火を防ぐまちづくり

延焼遮断帯の形成

市道の拡幅

消火設備を備えた防災公園の設備

③糸魚川らしいまちなみ再生

無震柱化の推進  
雁木再生への支援  
道路や歩道の美装化

④にぎわいのあるまちづくり  
防災とにぎわいの拠点施設の整備  
にぎわいの広場の整備  
事業再建支援策の拡充とUターン創業の促進

⑤暮らしを支えるまちづくり  
医療、福祉や子育てサービスと連携した市営化住宅整備  
被災地域へのUターンの促進  
誰もが気軽に集える場づくり

⑥大火の記憶を次世代につなぐ  
にぎわいの拠点施設の整備  
こども消防団の設置  
ホームページetcによる復興情報の発信

#### 〈所感〉

現地に早めに到着したので、糸魚川市駅北大火の現地を、2時間程現状を見ながら散策をしてみました。

過去には、何度も大火にあい多くの建物が焼失している様です。

特に今回（平成28年）の区域と重なるところが多いということで、大火に負けない消防力の強化、大火を防ぐまちづくりに特に力を入れ糸魚川らしいまちなみを再生を進めているところでした。

岡崎市においても、古い街並をみていると、同じ様な事がいえます。

ex.延焼遮断帯をつくることや建築費用の一部助成、木造建築物が密集する地域の不燃化に対する支援や防災機能を高めるための市道の拡幅（何かあった時にしかできないが…）前もって地域の人たちが早めに考えていくことが必要であると感じました。

